

Characteristics and clinical outcomes of patients with combined burns and trauma in Japan: Analysis of a nationwide trauma registry database

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊川, 靖章 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003557

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2750 号

Characteristics and clinical outcomes in patients with combined burn and trauma in Japan: an analysis of the nationwide trauma registry database

日本における熱傷患者および熱傷・外傷合併患者の疫学的研究

熊川 靖章 (くまかわ やすあき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は日本外傷データバンクを用いて、日本における熱傷患者および熱傷・外傷合併患者の疫学的研究である。日本における熱傷患者単独の死亡率は 18.2%であり熱傷外傷合併患者の死亡率 6.9%より高いことを明らかにした。諸外国とは異なる熱傷外傷合併患者の疫学が明らかとなり、今後の熱傷研究の方向性を示した。

【新規性、創造性】 日本国内において日本外傷データバンクを使用した熱傷の研究は少なく、また海外では熱傷に外傷を合併すると致死率が上昇するという報告があるが、日本国内では熱傷に外傷を合併した場合の致死率は不明であり、明らかにされていない。そこで、日本における熱傷および熱傷・外傷合併損傷の疫学的特徴を明らかにすることを目的に研究を行った。

【方法・研究倫理】 2004 年から 2017 年までの期間を対象に、日本外傷データバンクを用いて Abbreviated Injury Scale (AIS) コードをもとに、熱傷患者 5537 人および熱傷・外傷合併患者 246 人を抽出し、後方視的に解析した。さらに本学倫理審査委員会の承認を得ておこなわれた。

【学術的意義】 本研究により、日本国内においての熱傷の受傷起点、熱傷および外傷の重症度、死亡率などに関する新たな知識が得られた。この成果は、医学や公衆衛生分野における知識として、学術的に意義のあるものと評価出来る。

【考察・今後の発展】 日本国内においては熱傷・外傷合併患者は熱傷の重症度に比例して死亡率が上昇しており、外傷の重症度には死亡率があまり寄与していないと考えられた。これらの結果から、日本における熱傷外傷合併患者では、より熱傷治療が予後に影響を与えると認識しながら診療や研究を発展させる必要がある。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。